



これからも素敵な
出合いを大切に
していきます!

Think
Sense
Study
Action

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです。

ボランティアスタッフを募集しています!

政策や活動に共感して頂けるボランティアスタッフを募集しています。ご都合の良いお時間だけで結構です。メールやお電話で、お気軽にお問い合わせ下さい!!

uchida
naoyuki
.com



内田直之が考えたこと



Attention to heat stroke.

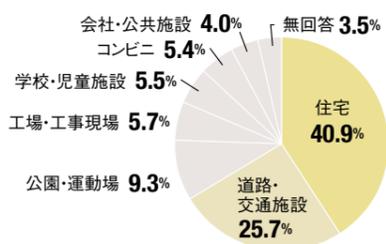
熱中症に要注意!

アメリカが「パリ協定」を離脱

トランプ大統領は、アメリカは地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」から離脱すると発表し、世界中に大きな波紋を引き起こしています。この「パリ協定」は先進国だけでなく、途上国も含む、196カ国すべての加盟国に温室効果ガスの削減目標と対策実行を規定しています。我が国は、同協定の着実な実施を進め、積極的な取り組みを通じ、アメリカに対して「パリ協定」への復帰を引き続き働きかけて欲しいと思っています。

こともわかりました。これは、熱帯夜の増加や住宅の高気密化、睡眠中の発汗による脱水症などが、原因と思われます。

発生場所別の緊急搬送状況



千代田区のヒートアイランド現象

気候変動問題のなかでも、特に顕在化しているのがヒートアイランド現象です。都心に位置する千代田区においては、身近で切実な区民共有の環境問題です。そのヒートアイランド現象を計るひとつの指標が熱帯夜の日数です。熱帯夜とは、夜間の最低気温が25℃以上のことを言います。千代田区でも近年、夏になると熱帯夜が続き、寝苦しい夜に悩まされる経験も多いと思います。そこで気象庁のデータより、千代田区における熱帯夜の日数推移を調べてみました。今から100年前の1917年までの5年間の平均日数は1.6日でした。そして、50年前の1967年では12.6日となり、直近の2016年では、30.6日と大幅に増加していることがわかりました。ちなみに、これまでの国内最高記録は、我が千代田区で2013年8月11日の30.4℃です。

熱中症の予防と対策

このように、何処でも誰でも熱中症にかかる危険があります。一方、正しい知識を知り普段から気を付けることで予防することもできます。熱中症の原因のひとつが高温と多湿です。屋外では強い日差しを避け、帽子や日傘を使用しましょう。屋内では、風通しを良くするなど、高温環境に注意することが大切です。扇風機やエアコンによる室温調整を行ってください。また、水分補給をこまめにすることも重要です。なかでも、乳幼児は体温調節機能が十分に発達していないため、より一層注意が必要です。また、高齢者は温度に対する感覚が弱くなるため、室内でも熱中症にかかりやすいと言われています。室内の気温や湿度を把握するとともに、自分の体調を知ることも大切です。最近では、熱中症の予防と対策につかえる無料アプリも数多く配信されています。私はiPhoneアプリの「熱中症警戒計」を使っています。気象庁の観測データからWBGT(暑さ指数)を算出し、危険度ランクが5段階で1時間ごとに表示される優れものです。観測点も自由に設定できるなどお勧めです。

死にも至る、危険な熱中症

東京消防庁によりますと、過去5年間(6月~9月)に、19,341人が熱中症により、救急搬送されています。各年とも、月別では7月、8月の発生が多いですが、梅雨期の6月や残暑の9月にも見られます。救急要請時を気温別に見てみますと、28℃~32℃までに多くの人が救急搬送されていることもわかりました。年代別では、80歳代が最も多く、次いで70歳代となっています。また、熱中症発生場所を見てみますと、住宅が全体の40.9%を占めており、次いで道路・交通施設が25.7%となっています。特に、この傾向は高齢者に顕著で、65歳以上では、住宅での発生が60%となっています。近年では、「夜間熱中症」の危険も指摘されています。東京都福祉保健局発による死亡者状況調査では、夜間に亡くなられた方が41%を占めている

Sense 世界の街歩き

ブダペスト(ハンガリー共和国)

人口 172万人
面積 525km²
共和制



ブダペストはハンガリーの首都であり、同国最大の都市です。欧州でも最も美しい街のひとつであり、ドナウ川西岸のブダとオーブダ、東岸のペストが1873年に統合され現在に至っています。ハンガリーの政治、文化、経済、交通の中心都市であり、東欧でも最大の都市です。西岸のブダにある丘に

熱中症の要因であるヒートアイランド

熱中症の大きな要因である、ヒートアイランド現象の発生メカニズムを考えてみました。地表面の舗装化や緑地の減少による蒸発散の減少、建物の高気密化による蓄熱冷房や自動車からの人工排熱の増大、都市形態の高密度化などが主な要因と思われます。ヒートアイランド現象は、都市部における光化学スモッグや局地的集中豪雨との関連性も指摘されており、デング熱などの蚊が媒介する感染症の蔓延への影響も懸念されています。

ヒートアイランド対策はこれまで、省エネ機器による人口排熱の低減や、保水性舗装や屋上・壁面緑化による表面被覆の改善、水と緑のネットワークによる都市形態の改善、クールビズによるライフスタイルの改善などが進められてきました。

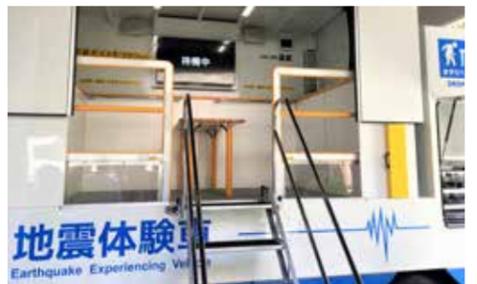
私はこれまで、千代田区独自の施策として、高層化を図るアップゾーンにより生まれた空間に緑や水辺を回復するゾーニングや、皇居の冷気を利用した風の道、親水性を取り戻す神田川や日本橋川の整備、首都高速都心環状線の撤去などを提案して参りました。また、昨年、噴霧エリアの気温を2~3℃冷却できるドライミストの試験的導入も提案・実現してきました。

ヒートアイランド対策は、長期的、広域的と成らざるを得ませんが、熱中症の対策など、即効性が期待できる施策も重要です。今後とも、長期的で抜本的な解決策と、短期的で即効性が有る施策をしっかりと提案し、ヒートアイランド現象の緩和と熱中症の撲滅を図っていきたくと考えています。

内田直之が行動したこと

地震体験車で熊本地震を体験

4月から千代田区に新しい地震体験車が導入されました。地域の防災力を強化するには、区民の皆さんが体験・実感できる防災啓発が効果的であり、私も早速体験してみました。震度7の熊本地震の再現は、本当に半端ない揺れでした。熊本地震の際、余震を恐れ多くの方が車に避難されたことが良くわかりました。改めて、建物の耐震化は日本、東京、そして千代田区の最重要課題であると確信しました。



専門性が発揮できる委員会に所属!

2期目となる区議会議員任期も2年が経過し、新たな委員会の設置や委員の配置が行われました。私は新たに、「子育て文教委員会」と「都市基盤整備特別委員会」へ所属する事となりました。また千代田区が設置している審議会には、「千代田区都市計画審議会」の委員として留任致しました。教育委員会に関する調査と都市計画、地区計画、市街地再開発事業の調査を建築士の視点より行って参ります。

Study 内田直之が学んだこと



タウンミーティングを開催しました!

西神田コスモス館、神田公園区民館、万世橋区民会館と3会場にてタウンミーティング2017を開催致しました。税金の使われ方や財政状況、私の活動報告、千代田区における重要課題についてお話させて頂きました。また、沢山のご意見やご指摘も頂き、しっかり取り組んで参りたいと思います。次回は10月26日(木曜日)に「区政報告会2017」を開催致します。ゲストは美人すぎる講師で有名な一龍斎貞鏡さんです。

されています。ブダペストの街角には、多くのシェアサイクルのポートがあり、道路には自転車専用レーンが整備されています。歩道も広く、トラムが美しい街をゆっくりと走っていました。美しい歴史的な街なみを、人が主人公として楽しめる、そんな素敵な街でした。千代田区にとっても、豊かな歴史や、水辺、夜景を活かしたブダペストの街づくりは、大変参考になると思いました。



1.熱中症対策とCASBEEの視点

【問題の背景】 区民の人命を脅かす熱中症への対策は、千代田区政における最重要課題のひとつであると考えます。熱中症の最大の要因であるヒートアイランド現象を抑制し、さらには改善するひとつの方策として、私はこれまで、CASBEE千代田版の検討を訴えてきました。「CASBEEはバランスのとれた総合的な評価基準であり、導入する自治体も増えると予想される中、動向を見据え、検討を進めていきたい。」とのご答弁も頂いて参りました。

地球温暖化につきましては諸説あり、科学的また政策的に国際的な議論が行われています。一方、都市におけるヒートアイランド現象は、都心に位置する千代田区において、身近で切実な最も顕在化した、区民共有の環境問題です。東京都や近隣区との連携なくしては解決できませんが、千代田区がその先頭になって対策を進めることは十分可能です。

【質問】

ヒートアイランド現象については、東京都や近隣区と連携した長期的・広域的な対策が必要。また、建築物環境計画書制度へ反映できたCASBEEの視点は？

【区(執行機関)の答弁】

深刻なヒートアイランド現象を緩和することはご指摘通り、熱中症などのリスクから区民をまもることはもとより、集中豪雨などの災害を防止するためにも、区政の最重要課題のひとつである。ヒートアイランド現象は長年にわたる都市形成の結果として生じた環境問題であり、長期的視点に立って区の取り組みを継続・強化するとともに、東京都や近隣区とも足並みを揃えて対応していく必要があると考える。

建築物環境計画書制度に反映したCASBEEの考え方等については、建築物の環境に対する様々な側面を客観的に評価する、評価制度を総合評価として明確に表示するなどの視点を取り入れて制度を整備したところである。また、建築物環境計画書の提出時期を建築確認申請の30日前までとしたことも、自治体CASBEEを採用している団体の状況を参考にした結果である。

2.耐震化率100%実現に向けた取組み

【問題の背景】 千代田区において、耐震化の100%実現は、被害者をゼロに出来る唯一の方策です。平成28年度における千代田区内の耐震化率は、公共建築物59棟は98%、特定建築物1350棟で90%、住宅約3万1000戸では91%となっています。目標である100%に向けて着実に耐震化は進んでいるように見えます。しかし、本当でしょうか？私は耐震化促進に関する指標には問題があると考えています。



活動フォトギャラリー



▲千代田区議会定例会



▼秋葉原映画祭



▲千代田区サッカーフェス2017



▼国立有明高専建築学科同窓会



▲タウンミーティング

ここで指標とされている耐震化率は、総務省の「住宅・土地統計調査」や東京都の耐震化の推計値をもとに算出されているという点です。また、住宅の統計は戸数ベースであることも、実態と乖離した数値になっている恐れがあります。

一方、千代田区では昨年より建築確認申請台帳と建築計画概要書のデータベース化が進められています。このデータベース化を契機に、台帳と実際の建築物との照合を行い、1棟1棟の現状をしっかりと把握し、耐震化推進へ活用しては如何でしょうか。耐震化を推進するには、正確な現状把握が不可欠だと考えます。

【質問】

耐震化率100%を実現する為、建築確認申請台帳のデータベース化を契機に、正確な実態調査を行うべき。次に、個々の建物において耐震化の有無を把握し、実効性が高い対策立案が必要。



【区(執行機関)の答弁】

区では、阪神淡路大震災以降、中越地震や東日本大震災、耐震改修促進法の改正や都条例の制定など、社会動向に素早く対応して、施策を構築してきた。とりわけ、耐震診断・耐震改修の助成制度の充実を的確に図るとともに、耐震化の必要性について普及啓発に努めてきた。こうした取り組みの成果指標である耐震化率については、着実に向上しているところであるが、内田議員ご指摘の通り、国及び都の耐震率の算出方法による統計と推計に基づくものである。千代田区にフォーカスした場合、建築物の現状が適切に反映されているかどうかは、確認することが困難である。そのような中、ご提案の建築確認申請台帳及び建築計画概要書のデータベースを活用することは、大変有効であると考えている。現状をしっかりと把握し、耐震化促進へ活用していく取り組みを進めていきたいと考える。その後、俯瞰的に見えてくる現状や課題から、プッシュ型で丁寧な耐震化支援施策が実現できないか、ご指摘を踏まえ、更に深堀していきたい。

3.障害者福祉計画の推進

【問題の背景】 2020年のパラリンピックを契機に、障がい者福祉が一層推進され、ユニバーサル社会、共生社会の実現に近づくことが期待されています。法制度におきましても、障がい者の福祉増進や障がい者への支援を加速しており、特に大きな変更と認識しているのは児童福祉法の改正です。従来は、障害福祉計画の一部で示されていた障がい児のサービスに係る提供体制は、法改正により、自治体において「障害児福祉計画」を策定することが義務づけられました。私は、このような障がいを持つ人、子どもへの支援に対する動きを踏まえ、千代田区の障がい者福祉も充実させるべきだと考えます。共生社会をめざす千代田区がどのような理念で障

千代田コラム

博報堂旧本館

大手広告代理店の博報堂の本社屋として昭和5年(1930年)完成しました。この写真は、私が平成20年に撮影したもので、その2年後に取り壊され、現在はファサードだけがテラススクエアに残されています。3階部分まで伸びた4本のドリス式風の円柱とアールデコ風の塔屋の複合を特徴とした鉄筋コンクリート造の建物です。ちなみにアールデコとは、1910年代から30年代に流行した様式で、単純・直線的なデザインが特徴とされています。ここ千代田区では、山の上ホテルが有名です。

設計の岡田信一郎は、歴史的な様式に沿った建築を鉄筋コンクリート造で建てることに定評がありました。府立一中(現日比谷高校)、明治生命館、ニコライ堂の鐘楼とドーム部など、千代田区にも多くの作品を残しています。完成した昭和5年は、地下鉄銀座線の上野駅から万世橋駅まで開通した年です。この昭和初期は、関東大震災後の後藤新平による帝都復興計画により、都市計画が本格的に実施され、東京が江戸から近代都市へと変貌していく時代でした。失われていく貴重な歴史的建築物を守りながら、都市の機能更新を図ることは、私たちに与えられた使命だと感じました。



Sense

障がい者福祉を進めるのか、パラリンピックを控えた今、「障害者計画」を新たに策定する必要があります。

平成25年4月以降、障がい者の定義に難病患者等が追加され、障がい者福祉の対象者は増加していると予想されます。また、こども発達センター「さくらキッズ」の登録者も年々増加しているとも聞いています。一方、障がい児の家族のレスパイトケア問題も深刻です。千代田区でも、障害者福祉センター「えみふる」の利用対象者は、18才以上とされているため、障がい児の家族のレスパイトとして利用できないと、障がい児を持つ親からは、障がい児のための施設が区内にないことへの不満が寄せられています。

【質問】

千代田区の障がい者福祉を充実させ、明確な理念を掲げた、切れ目ない支援を実現するためには、障害福祉計画、障害者計画及び、障害児福祉計画の改定を相互に連携させるべきと考える。

【区(執行機関)の答弁】

今年度策定する「障害者計画」には、千代田区が進める障害者施策の基本理念をしっかりと示していく。計画策定にあたっては、子どもから高齢者まで一人ひとりのライフステージに応じて、切れ目ない支援を行えるよう、障害者計画と障害福祉計画、障害児福祉計画の連携を図り、一体の計画として策定したいと考えている。また、障害者施設の増設についても、この計画策定に合わせて検討をス掘りたいと考えている。

4.障がい者福祉の推進体制強化

【問題の背景】 新たな障がい者施設の整備のためには、障がい者の現状や要望をこれまで以上に詳細に把握したうえで、施設の機能や規模の決定や、整備の場所や方法の検討、地域の理解、運営方法の検討や事業者選定など、多くの時間と労力が必要となります。また、千代田区では0歳から18歳まで切れ目ない施策を展開するために、児童福祉と学校教育を一体的に所管する「子ども部」を設置しています。

一方、障がい者福祉を推進する観点から、児童福祉を保健福祉部が所管していないことによるデメリットもあると思われます。障がい者福祉を推進する為には、「保健福祉部」と「子ども部」の連携が欠かせません。障がい者と障がい児を分けることなく支援を提供できる体制を、区の組

織体制も含めて整える必要があるのではないかと考えます。

【質問】

障がい者福祉をより推進するとともに、新たな障害者施設の整備の為に、庁内組織の再編や人員の増強などの体制強化、また、保健所への支援も必要と考える。

【区(執行機関)の答弁】

ライフステージに応じた切れ目ない支援は、障害者施策を推進するための体制が重要であることは議員ご指摘通り。子ども部は、教育と児童福祉を所管することで0から18歳までの子どもへの切れ目ないトータルな施策展開を図っている。しかし、障害者福祉に着目すると18歳を境に所管が変わること、ご指摘の「えみふる」の例に象徴されるような課題があることも認識している。今後、新たな施設整備の検討も含め、障害を持つ方々への切れ目ない支援を提供し、障害者福祉を充実できるよう、組織の縦割りの弊害をできる限り少なくして、十分な連携ができるよう体制を検討して行く。



街づくりへ、プロの視点。

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
1984年国立有明高専建築学科を卒業、トステム株式会社(現LIXIL)入社。総合企画室主任、海外赴任(バンコク)を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務

●所属団体

千代田区 サッカー協会 会長
千代田区 軟式野球連盟 顧問
千代田区 相撲連盟 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学 危機管理・コミュニティ持続研究C 客員研究員
社団法人 東京建築士会
NPO法人 Football Community 千代田 顧問
NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク
社会保険労務士会千代田支部 顧問

内田直之事務所

〒101-0065千代田区西神田3-5-3 2212

Tel/Fax 03-5212-5222

Web www.uchidanaoyuki.com

e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp